

remember and action プロジェクト がスタート アスリートが紡ぐ 震災30年への想い



スポーツの力を次代に

スポーツには、地域を元気にし、人々を笑顔にする力がある。震災復興の最中も、兵庫ゆかりのアスリートや地元クラブの活躍に、私たちは勇気づけられた。震災30年にあたり、改めてスポーツの力を見つめ直し、次代につなぐ「remember and actionプロジェクト」を展開する。

アスリートが想いをこめて

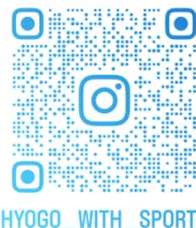
兵庫ゆかりのアスリートが、震災当時の出来事や思い出、震災に向き合って自分にできることなどをメッセージ動画として発信。7人（下記のとおり）からスタートして、2025年の1年間、アスリートに限らず、幅広いスポーツ関係者でつないでいく。

五十音順・敬称略

朝原 宣治（陸上競技） 岡崎 慎司（サッカー）
 沢松 奈生子（テニス） 近本 光司（野球）
 中西 良太（バスケットボール）
 日和佐 篤（ラグビー） 安田 祐香（ゴルフ）

メッセージの発信

メッセージ動画は、兵庫県スポーツ振興課の公式Instagramや各アスリート・所属クラブのSNSなどで公開。連携クラブの試合やスポーツイベント等の会場にて、当該プロジェクトのPR活動を展開予定。



あの頃の YELL 今も息づく YELL

あの頃。
 およそこの世とは思えないあの状況で、
 避難所の体育館で、ボランティアの現場で、復興途上の街で。

そこにあったのは
 自らの身を動かす YELL
 とともにがんばろうと声を出す YELL
 静かに見守る YELL
 誰かを想う YELL
 自らへの渾身の YELL

30年たった今、
 家庭や職場、学校、何気ない日常のかかわりあいで、
 そして、体育館、グラウンド、スタジアムで。

あのときの YELL は、
 30年たった今も確かに兵庫に息づく。
 そして、たぶん、これからも。

